国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院
National Center for Global Health and Medicine
http://www.ncgm.go.jp/
発　行　連携医療ネット
住　所　東京都新宿区戸山1-21-1
代 表　ＴＥＬ　03-3202-7181
ＦＡＸ　03-3207-1038
地域医療連携室
直 通　ＴＥＬ　03-3202-8066
ＦＡＸ　03-3202-1003

連携医療NEWS

Vol.45　7月号

内　容
・新任あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・1
・新任あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・2
旬の味覚
・新任あいさつ ・・・・・・・・・・・・・・・・3
看護通信
・連携登録医のご紹介 ・・・・・・・・・・・・4

副院長のあいさつ

副院長

大曲　貴夫

この度、4月1日付けで国立国際医療研究センター病院副院長に就任致しました。副院長として感染症、国際診療、教育、患者サービスを担当しております。私は元々感染症を専門とする内科医です。センター内では総合感染症科、国際感染症センター、国際診療部の責任者も務めております。

総合感染症科はこの4月から立ち上がった科です。原因の分からない発熱、海外からの帰国後の体調不良、診断や治療の難しい感染症等、感染症および感染症が疑われる患者さん等を広く診ています。総合感染症科のなかには日本最大のトラベルクリニックもあり、海外渡航前の方の健康診断や黄熱ワクチンなどのワクチン接種も行っています。お困りの時は遠慮無く声をかけて頂ければ幸いです。

国際感染症センターは国をまたいで広がる重大な感染症に対する研究・啓発・国への政策提言を行う部門です。新宿区をはじめとした地域の先生方、保健所および東京都の方々と共同で新型インフルエンザ対策等地域の感染対策のお手伝いもしております。記憶に新しいとことでは2014年に東京都内でデング熱のアウトブレイクがありました。

外国からのお客様の数は年々増加し、東京オリンピックも控えています。外国からの患者さんへの対応は日本国内でも喫緊の急務です。当院の国際診療部は外国人の患者さんに安全・安心で質の高い医療を提供するために設置されました。国際診療部のコーディネーターが、受診までの手続きや支払いについて患者さんと医療者のお手伝いをしています。センター病院内には英語を話せる職員も多く、中国語の出来る医療通訳も2名所属しています。また電話通訳システムも導入しており13カ国語に対応しています。国際医療研究センター病院では外国人の患者さんを積極的にお受けしておりますので是非遠慮無くご紹介頂ければ幸いです。

当センターは医学教育にも古い歴史を持っており、毎年多くの初期研修医・後期研修医を受け入れています。医療人として十分な社会的素養を身につけさせ、何事も患者第一で考える優秀な医師を育てるべく努力して参ります。

優れた病院は、安全・安心で質の高い医療を提供することは当然として、患者さんに暖かみと親しみを感じて頂けいただけなければなりません。患者サービス担当の副院長として、地域の方々、そして海外の方々も温かく受け入れることの出来る、ホスピタリティ溢れる病院作りを行って参ります。

新任のあいさつ

腫瘍科
診療科長
山田　康秀

腫瘍科診療科長として、平成29年4月1日に着任しました山田康秀です。癌研究会附属病院、国立がん研究センター中央病院で消化器がんの化学療法を専門として、診療、研究に従事してきました。当院は、平成29年4月から国の指定するがん診療連携拠点病院に指定されました。がんの専門医だけではなく、すべての診療科に専門医を有する総合病院の特長を活かし、心臓、腎臓、肝臓などの機能低下、精神・神経疾患、感染症など多様な併存疾患をもつがん患者の治療にも対応していきます。治療前の臓器機能を中心とした体調全般を適切に評価し、治療薬の特性に応じた薬物動態等を推測することで、治療をオーダ ーメード化できます。

最近は分子標的治療薬が汎用されるようになってきました。その副作用として、従来の抗がん剤で起こる吐き気、下痢、白血球減少などだけではなく、血栓・塞栓症、高血糖、自己免疫性疾患類似の病態など多彩なものがみられるようになってきました。そのため、安全に抗がん剤治療を実施し、最大の効果を得るためには、がん薬物療法の専門医、メディカルスタッフに加えて、多彩な副作用に対して最適な対処をすることが可能な各診療科専門医の知識と経験が必要です。

当院では、それらのすべてを兼ね備えており、患者さん一人一人に最適な治療と管理を提案することが可能です。

現在、他病院でがんの治療を受けている方であっても、セカンドオピニオンを聞くために当院を受診して頂くことも可能です。もちろん当院での治療を希望される場合には、対応させて頂きます。標準的な治療がこれ以上ないという診断をされた患者さんに対しても、既存薬の使い方の変更やゲノム診断により効果があると考えられる治療薬（保険適用外）の紹介（近日中に実施可能となる予定）、最適な緩和治療等により、新たな治療法を提案できる可能性があります。できるだけ多くの患者ニーズに応えていきたいと思います。

新任のあいさつ

新生児科
医長
水上　愛弓

２０１７年４月１日付けで第二新生児科医長に着任いたしました水上愛弓（みずかみあゆみ）です。専門領域は小児循環器です。

東京女子医科大学を卒業し、東京女子医大循環器小児科、長野県立こども病院循環器科、聖隷浜松病院小児循環器科、榊原記念病院等に勤務し、先天性心疾患の診療に取り組んできました。また、医薬品医療機器総合機構（PMDA）で新薬や新医療機器の審査業務を担当してきました。

心室中隔欠損やファロー四徴などの先天性心疾患は、生産児の約1%に発生するため、日本では年間10,000人近くの先天性心疾患をもつ児が生まれていることになります。また診断技術や外科治療の発達、内科管理の向上により小児先天性心疾患患者の多くが成人を迎えるようになっており、乳児期を過ぎた小児患者の96%以上が成人となり、近年では成人先天性心疾患患者数は飛躍的に増加しています。

当センター小児科では、２０１７年7月より毎週火曜日午後に心臓専門外来を開設いたします。年齢制限なく新生児の先天性心疾患、乳児の心雑音から学校心臓検診、成人先天性心疾患の患者さままで幅広く対応いたします。当院での小児の開心術は困難な状況でありますが、手術が必要な患者さまは、責任を持って近隣の専門医療機関にご紹介させていただきます。また、術後の外来管理は当院でも可能と考えております。

患者さま、ご家族の不安を解消し、こどもたちが心身ともに健全な成長を遂げられるよう貢献してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

看 護 通 信

平成２９年4月に入退院支援センターを開設いたしました。徳原入退院支援センター長をはじめ、専従看護師3名、医師事務補助者、診療情報管理士、薬剤師、管理栄養士で構成されています。入院支援部門と退院支援部門に分かれており、入院支援部門では手術予定の患者さんに入院前から多職種が関わり、術前検査や手術オリエンテーションを行っています。退院後の生活について不安がある方には、退院支援部門と連携し安心して手術に臨めるよう支援をしています。患者さんが主体的に治療に参加でき、安全で快適な入院生活をおくることができるよう心がけています。

現在は乳腺、白内障、ヘルニアなど限られた患者さんのみですが、今後はさらに対象患者さんの幅を広げてまいります。手術・入院についての心配事があればお気軽にご相談ください。

連携登録医のご紹介

菅野病院

院長　濱 嵜　公 久　先生

菅野病院

診 療 科　内科・泌尿器科・整形外科・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科・人工透析・心療内科・歯科・眼科
住　　所　埼玉県和光市本町28番3号
電　　話　048-464-5111
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.kanno-hospital.com/

東武中央病院

診 療 科　精神科・老年精神科・心療内科
電　　話　048-464-6211

東京メトロ副都心線　西早稲田駅より、終点の和光市にあります、医療法人寿鶴会　菅野病院　院長の濵嵜公久です。

私は、平成５年より国立国際医療センター（入局当時は国立病院医療センターでした。）泌尿器科にて、藤田公生先生、岸洋一先生、簑和田滋先生にご指導いただき、研修医、レジデント、チーフレジデント、臨床研修指導医、厚労省医員を経て、平成２２年まで在籍していました。

当院は、昭和33年に開設以来、地域医療における中核的な役割を長年に渡り担っており、特徴と致しまして、認知症の身体合併症に対応できる病院機能の体制強化を目指しております。

人工透析センターでは、 外来透析をはじめ、医療療養病床での長期入院透析や、　昨今各医療機関が対応に苦慮されている、認知症患者の透析治療にも対応しております。認知症合併症の対応に当たりましては、隣接の東武中央病院が、埼玉県南西部医療圏における認知症疾患医療センターに認定されていることから、『老年性精神疾患（認知症等）』や『うつ病』『不安障害』『統合失調症』などの治療を中心に、身体合併症の治療を当院と連携することで、人口透析等の内科的な疾患はもとより泌尿器科、眼科、整形外科、リハビリ、歯科、入院患者の口腔ケア指導などにも幅広く対応しております。透析ベッド数は25床、平成25年11月より日機装社の透析支援システム（FNW）を導入、平成26年2月よりOn-lineHDFを開始し、23台の透析監視装置がOHDF対応装置となっています。透析治療以外にも、 血液吸着、血漿交換など各種血液浄化法、シャント造影検査、シャントPTA、シャントエコー検査、シャント造設手術（入院患者様対象）を行っています。私の担当の泌尿器科においては、泌尿器科がんのスクリーニングから治療（膀胱鏡、経直腸超音波検査、前立腺針生検、前立腺がんに対するホルモン療法など）BPH/LUTS、OAB、神経因性膀胱などの排尿障害に対する治療や外来自己導尿指導、尿路性器感染症に対する治療を行っています。また常勤の腎臓内科医と併診して慢性腎臓病の管理・治療も行っています。現在、当法人を取り巻く環境は大きく変わりつつありまして、病院機能の大幅な見直しを行います。今年7月には、地域包括ケア病床の開設を行いまして、ｓ10月～法人の２病院（菅野病院・東武中央病院）を合併し、急性期病院との連携を強めて参ります。

医療法人　壽鶴会　菅野病院は、地域住民の皆様に親しまれ、信頼される病院を目指し、『地域に根ざした病院作り』をテーマに掲げ、その実現に専念して参りました。

当院はまず患者様の身になり、親切・丁寧な対応を第一に、より良い医療を提供して、微力ながら地域医療に貢献するため日々精励する決意です

国立国際医療研究センターの先生方には、日頃より連携を戴き大変お世話になっております。今後も一層の御指導と御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

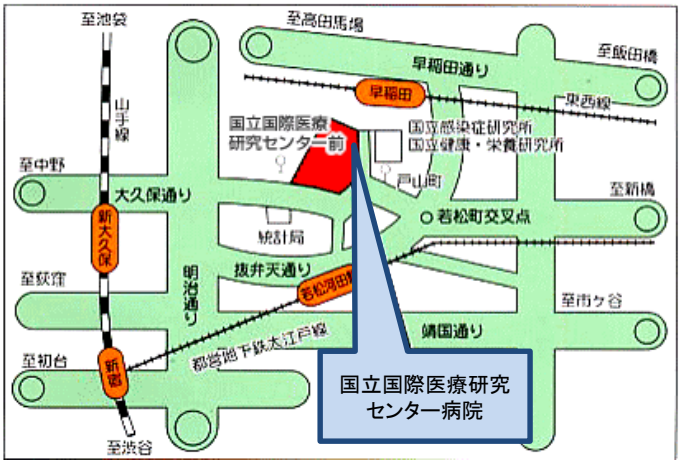
外来診療時間　８：30～17：15
・初診受付　紹介状が無い場合　８：30～11：00
　　紹介状が有る場合　８：30～14：00

ただし、形成外科、産婦人科、神経内科、整形外科、精神科、リハビリテーション科の6科および結核(疑いも含む)については「11時までの受付」と なっています。

・休診日　　土・日・祝日・年末年始

アクセス

・都営地下鉄 大江戸線「若松河田駅」より徒歩5分
・東京メトロ 東西線「早稲田駅」2番出口より徒歩15分
・JR大久保駅又は新大久保駅より都営バス「新橋」行
　国立国際医療研究センター前 下車
・新宿駅西口より都営バス「医療センター経由女子医大」行
　国立国際医療研究センター前 下車



国立研究開発法人
国立国際医療研究センター病院　〒162-8655　東京都新宿区戸山1-21-1
ＴＥＬ　03-3202-7181　ＦＡＸ　03-3207-1038　ホームページ　http://www.ncgm.go.jp/